

# 相模原市立博物館活動評価書

(評価期間:令和2年度～令和3年度)

令和4年 11 月

相模原市立博物館

## 【目次】

I	相模原市立博物館活動評価の総括 (評価期間:令和2年度～令和3年度)	1
II	博物館の活動評価にいたるこれまでの経緯	4
III	相模原市立博物館活動評価	
	事業評価シート(定量評価)	7
	事業評価シート(定性評価)	9

## I 相模原市立博物館活動評価の総括 (評価期間:令和2年度～令和3年度)

平成 20 年6月に「博物館法」が改正され、博物館の運営状況の評価やその情報の提供等を行うこととされた。このため当館では、当館の使命等に基づき、定量評価及び定性評価の手法で、博物館協議会による有識者評価を経て、平成 23 年度から 25 年度、平成 26 年度から 28 年度、及び平成 29 年度から令和元年度に引き続き、第4回目となる令和2年度から令和3年度までの活動について評価を行った。

### 【当館の使命】

- 地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること
- 主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること

### 【評価項目】

- 1 展示教育普及事業の推進
- 2 関連施設・機関との連携
- 3 市民との協働による博物館活動の展開
- 4 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

### 令和2年度～令和3年度における活動評価全体総括

- 「市民と歩む博物館」を活動理念として掲げ、多くの市民団体と協力して博物館活動を展開していることが評価された。  
具体的には、ボランティアとの協働により教育普及事業及び各専門分野の活動をはじめ、図書館や公民館などとの連携、小中学校を中心に学校への学習支援などが評価された。さらには、JAXA 宇宙科学研究所と連携した多彩な宇宙教育普及事業の実施を推進してきた点も評価された。
- 博物館の活動についてネットメディアなどを活用した情報発信は活発に行われていることが評価された。課題としては、若い世代に向けた SNS の活用や利用者目線でのホームページの構築、動画の編集・公開方法、広報媒体の再検討など、広報活動に改善する余地があることについて指摘された。

地域文化を継承・発信する拠点としての博物館の使命を果たすべく、こうした評価を真摯に受け止め、今後とも改善を積み重ねて活動を推進していく。

## 【定量評価】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館となったため、様々な事業が中止となり、入館者は大幅に減少した。しかし、そのような状況でも、感染対策を取りながら、企画展やイベントを実施したり、動画を配信したりするなどして、市民の学習機会の場を維持し、生涯学習機関としての博物館として役割を果たすことができた。

## 【定性評価】

### 1 展示教育普及事業の推進(9～12 ページ)では、「企画展示の実績と常設展示リニューアル」「宇宙教育普及事業の展開」について評価を行った。

有識者からは、コロナ禍でも感染対策を取りながら企画展や「はやぶさ2」帰還カプセル世界初公開等を実施したことが評価された。また、宇宙教育普及事業では、JAXA 宇宙科学研究所(以下 JAXA という)との連携も進めつつ、博物館独自の事業、特に、気象分野も含めた事業展開も求められた。

課題として、開館から25年以上が経過している中で常設展示の全面リニューアルが実現できていないことや、分野横断型の本当の意味での総合博物館としての企画が実現できていないことが挙げられた。

### 2 関連施設・機関との連携(13～17 ページ)では、「博物館ネットワークの推進」「学校への学習支援」「図書館・公民館等との連携」について評価を行った。

有識者からは、学校への学習支援や公民館等への講師派遣などが積極的に進められている点、および、関連施設でのミニ展示の出張展示について評価された。

課題として、学校との連携や学習支援に不可欠である博物館と学校をつなぐ役割を果たすコーディネーターの配置や、津久井地域にある所管施設の利用促進が挙げられた。

### 3 市民との協働による博物館活動の展開(18～19 ページ)では、「市民の会の活動の展開」「市民学芸員の活動の展開」について評価を行った。

有識者からは、博物館活動のあらゆる場面で市民と協働している点や市民活動の発表の場を設けている点が評価された。また、市民の会には、さらなる博物館活動への参加が期待されている。

課題として、高齢化による市民の会への参加者減少の対応策や、常設展示の展示替えをいかに市民協働で実現していくのかが指摘された。

### 4 博物館の基礎的な機能を果たすために必要な活動(20～21 ページ)では、「資料整理及び展示、調査成果の公表」「様々なメディアを用いた情報発信の取組」について評価を行った。有識者からは、動画配信や積極的な広報活動が評価された。

課題として幅広い世代を対象に、様々な手段を用いて広報活動を展開することが求めら

れた。

また、学芸員の調査研究活動について、博物館の活動を支える重要な機能の一つであることから、展示教育普及事業等とのバランスを図るよう求められた。

## II 博物館の活動評価にいたるこれまでの経緯

平成 20 年6月 博物館法改正

博物館法条文

(運営の状況に関する評価等)

第九条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第九条の二 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

平成 21 年 12 月 第8期博物館協議会へ「活動状況に関する評価計画の策定」について諮問

第8期博物館協議会(任期:平成 21 年 11 月 20 日～平成 23 年 11 月 19 日)において、博物館評価の先進事例や当館のこれまでの活動状況をもとに、評価のあり方について検討が行われた。

平成 23 年 11 月 第8期博物館協議会より「活動状況に関する評価計画の策定」について答申

評価のあり方について答申されるとともに、相模原市立博物館の使命として次のとおり定められた。

- 地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること
- 主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること

また、重点課題として次の項目が挙げられた。

- ★ 常設展示のリニューアルと博物館ネットワーク計画の推進
- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開

平成 24 年2月 第9期博物館協議会へ「活動状況に関する評価計画の策定」について諮問

第9期博物館協議会(任期:平成 23 年 11 月 20 日～平成 25 年 11 月 19 日)において評価計画及び具体的な評価の手法について検討を行った。

**平成 25 年 11 月** 第9期博物館協議会より「博物館の活動状況に関する評価について」答申  
同答申において、具体的な実施方法について次のとおり策定された。

- 定性的評価と定量的評価を組み合わせる。
- 定量的評価は、博物館における一般的な数値である入館者数ばかりでなく、特に当館の重点課題の一つである市民協働に資する活動等に係わる数値について、目標値を設定した上で実施する。
- 定性的評価は博物館の使命を達成するための当面の重点課題に対して行う。  
実施の手順に際しては、重点課題を達成するために実施する事業について、まず館内部での企画内容とそれへの達成度に対する自己評価を行い、それに対する利用者・参加者側の評価をアンケート等の結果を基に示し、その上で**博物館協議会による有識者評価**を行って、全体的な評価としてまとめる。なお、協議会による評価は、会議の開催日程等、時間的な制約もあるため、効率的な実施に務める。

#### **平成 25 年 11 月** 第 10 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 10 期博物館協議会(任期:平成 25 年 11 月 20 日～平成 27 年 11 月 19 日)において、新・相模原市総合計画前期実施計画期間である平成 23 年度から平成 25 年度までの博物館の活動評価について、有識者評価を実施した。同時に、利用者統計や来館者アンケート、ボランティアによる評価等など、評価全体の方向性について検討を行った。

**平成 26 年 11 月** 平成 23 年度から平成 25 年度までの活動評価書を作成

**平成 27 年 3 月** 相模原市教育委員会定例会議にて報告

#### **平成 27 年 11 月** 第 11 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 11 期博物館協議会(任期:平成 27 年 11 月 20 日～平成 29 年 11 月 19 日)において、新・相模原市総合計画中期実施計画期間である平成 26 年度から平成 28 年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

- ★ 常設展示のリニューアルと宇宙教育普及事業の展開
- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすために必要な活動

**平成 29 年 11 月** 平成 26 年度から平成 28 年度までの活動評価書を作成、また、第12期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 12 期博物館協議会(任期:平成29年11月20日～令和元年11月29日)において、平成29年度から令和元年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後

の評価の手法について検討を行った。

- ★ 展示教育普及事業の推進
- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

**平成 30 年 3 月** 相模原市教育委員会定例会議にて報告

**令和元年 11 月** 第 13 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 13 期博物館協議会(任期:令和元年 11 月 20 日～令和3年 11 月 19 日)において、平成 29 年度から令和元年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

- ★ 展示教育普及事業の推進
- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

**令和3年3月～7月** 平成 29 年度から令和元年度までの活動評価を作成

**令和3年 11 月** 第 14 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 14 期博物館協議会(任期:令和3年 11 月 20 日～令和5年 11 月 19 日)において、令和2 年度から令和3年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

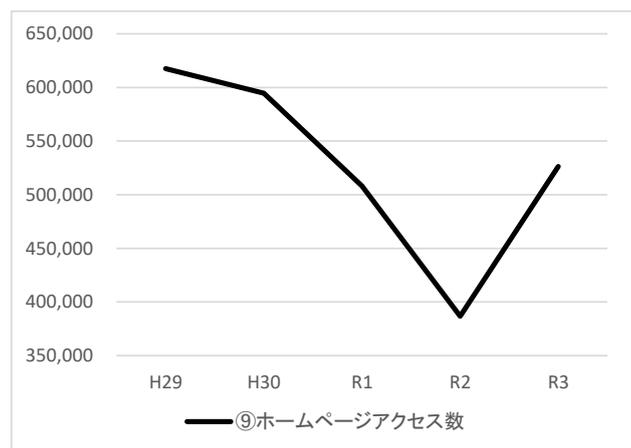
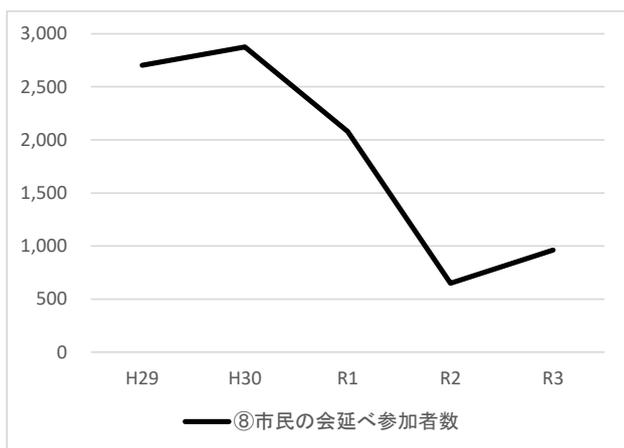
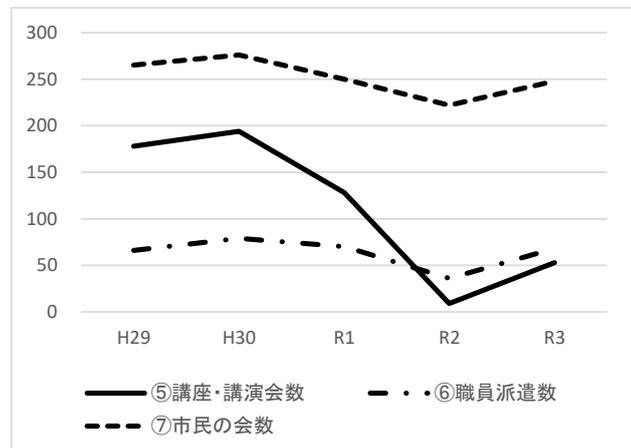
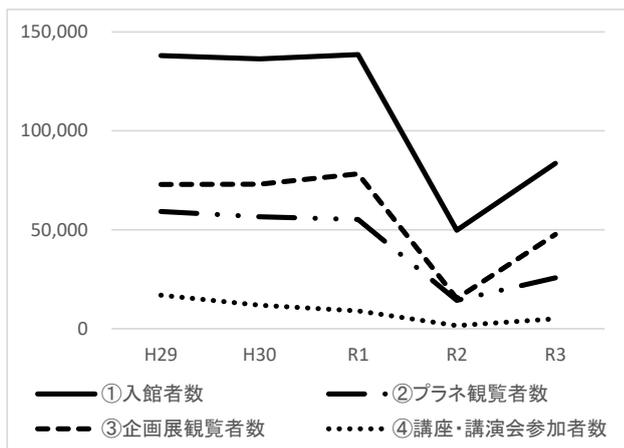
- ★ 展示教育普及事業の推進
- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

**令和4年 10 月～11 月** 令和 2 年度から令和 3 年度までの活動評価書を作成

### Ⅲ 相模原市立博物館活動評価

定量評価資料（令和2年度～3年度）  
事業評価シート（定量評価）

	項目	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	29-元 3年平均	2-3 2年平均	5年平均
①	入館者数	137,996	136,450	138,573	49,770	83,550	137,673	66,660	109,268
②	プラネタリウム観覧者数	59,245	56,530	55,195	14,323	25,700	56,990	20,012	42,199
③	企画展観覧者数	72,876	73,069	78,289	15,275	47,727	74,745	31,501	57,447
④	講座・講演会参加者数	16,941	11,841	8,962	1,542	4,995	12,581	3,269	8,856
⑤	講座・講演会数（延べ回数）	34(178)	45(194)	42(128)	5(9)	7(53)	40.3(166.7)	6(31)	26.6(112.4)
⑥	職員派遣（外部講師）数	66	79	70	36	68	72	52	64
⑦	市民の会数（登録者数）	11(265)	12(276)	12(250)	9(222)	10(248)	11.7(263.7)	9.5(235)	12.3(271.0)
⑧	市民の会延べ参加者数	2,702	2,876	2,080	649	963	2,553	806	1,854
⑨	ホームページアクセス数	617,530	594,620	508,070	386,706	526,359	573,407	456,533	526,657



【自己評価】

①	入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度に約5か月、令和3年度に約2か月の休館を余儀なくされたうえ、多くの事業が中止となったため、大きく落ち込んだ。令和2年度の入館者数が約50,000人と開館以来最小となったため、令和2年度から3年度までの2年間の平均も約66,000人と、前3年の平均約138,000人の半数程度となっている。
②	プラネタリウム観覧者数は、子どもに人気があるキャラクターが登場する全天周映画の上映の有無や取り上げるテーマ等により上下はあるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で休館していた期間があったこと、また再開後も令和3年12月末まで座席の制限等を行っていたため、観覧者数が減少した。
③	企画展は、新型コロナウイルス感染症の影響で休館していた期間があったため、令和2年度では予定していた8本のうち、中止が3本、会期短縮が2本あり、令和3年度も8本中3本は会期を短縮して開催したことから観覧者数が激減している。そのような中でも、令和2年度には「はやぶさ2」の帰還カプセルを世界初公開し、約4,600人も観覧があった。また、令和3年度には小惑星リュウグウのサンプルを公開し、約3,500人の観覧があった。
④ ⑤	講座参加者・講演回数は、講座数は年度により差はあるものの、29年度からの3年間では平均40回以上、延べ約37,700人に学びの機会を提供できていたが、令和2年度以降新型コロナウイルス感染症の影響で講座数が7～8分の1に減少したことから参加者数も減少している。
⑥	公民館等からの依頼で講師として職員派遣を行った回数は、年間70回前後を推移しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度のみ36回と大きく減少している。コロナ禍においても実現可能な開催方法として、令和2年度からはオンラインによる講師派遣も行うようになった。
⑦ ⑧	市民ボランティアとして活動している市民の会のうち、団体数は登録者数、参加者数とも減少傾向にある。新型コロナウイルス感染症の影響で、活動を自粛している団体もあったことから、参加者数が激減した。
⑨	ホームページアクセス数は、5年間の年平均が約52万回で令和2年度はアクセス数が約39万回と減少したが、令和3年度には平均値に回復している。

5年間（平成29年度～令和3年度）の推移から見る今後の取組

5年間のうち、前3か年は活動状況が活発であったことが数字からも見られるが、後2か年は新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館や様々な事業の中止など、展示や教育普及活動の見直しを図らなければならない状況になっていった。

そうした中で、市民の学習機会を維持し、博物館として状況に応じた情報の発信を行うため、休館期間には展示解説を、再開後には企画展の講演会をオンライン配信するなど、新たな試みを実施した。令和3年8月から9月にかけての休館の後には、10月から生きものミニサロンや講演会を対面で再開するなど、コロナ前の日常を取り戻しつつある。

困難な状況であったが、コロナ禍でも、動画を配信したり、感染症対策を取りながら開館することで、模索しながら博物館活動を継続してきた。

今後はSNSや動画配信などの情報発信を、より効果的に使い、リピーターや新たな来館者の獲得に向けた試みを考えなければならない。

## 相模原市立博物館の活動評価(定性評価)

### 1 展示教育普及事業の推進

#### 1-1 企画展示の実績と常設展示リニューアル

##### 【自己評価】

- ・企画展示は、令和2年度は生物分野、歴史分野、地質分野、天文分野の企画展、学習資料展を開催し、観覧者数は15,275人であった。また、入館者数全体の来場者数の割合は平均して30.7%であった。
- ・令和3年度は考古分野、歴史分野(市立公文書館との共催含む)、生物分野、天文分野の企画展、学習資料展を開催し、観覧者数は47,727人であった。また、入館者数全体の来場者数の割合は平均して57.1%であった。
- ・平成29年度から令和元年度までの企画展の観覧者の入館者全体に占める割合は、52～57%であった。これらと比較すると、令和3年度はコロナ禍以前と同程度であるが、令和2年度は明らかに少ない。令和2年度は6月から8月まで常設展示室のみで開館しており、その影響で企画展観覧者の割合が少なくなったと考えられる。
- ・企画展においては、オリンピック関連のクリアファイルやピンバッジなどの記念品や体験キットの配布、ギャラリートーク、トークショーなどの関連イベントのほか、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、インターネットによる展示解説動画や外部講師による講演動画の配信を実施した。
- ・令和2年度から令和3年度上半期にかけて緊急事態宣言に伴う臨時休館が複数回あったことから、企画展示の中止や延期を余儀なくされ、観覧者数は前年度から大幅に減少した。令和3年度下半期からは新型コロナウイルス感染防止対策を講じつつ、対面での展示解説等を再開したが、ワークショップ形式の関連事業等については制限を設けなければならぬ状況が続いている。
- ・コロナ禍において様々な制限を受けた一方で、動画配信など新たなメディア展開を試みたことで、より広く活動をアピールすることができた。
- ・常設展示リニューアルについては、市民学芸員による展示替え検討会を継続して実施し、主に津久井地域に関連する資料のミニ展示を市民の視点から行うことができた。

##### 【市民の意見】

(企画展アンケートより)

- ・貴重な展示品を一度に見られて、相模原にまだまだ古くから受け継がれている未知なものがある事を知ることができた。個人蔵の資料もあり、協力者のご好意や展示に至るまでの職員の努力が伝わった。
- ・石を色で分けてある所がとても面白かった。色分けされていることで見比べることができ、石の違いについて学ぶことができた。このような企画展を今後も楽しみにしている。
- ・以前来館した時より展示内容が充実してきた印象がある。さらに充実させてほしい。
- ・全体的にすっきりしていて見やすかった。写真と解説と実物をすぐ見比べられるので理解しやすかった。

- ・わお！な生きものフォトコンテスト写真展の写真は、見ていてどれもほっこりするもので、コロナ禍にあって沈みがちな気持ちを元気にしてくれるものばかりだった。

#### 【有識者意見】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、令和2・3年度のイベントの自粛や中止、さらには施設の休止などの措置は致し方ないものであり、適切な対応であったと考える。感染防止に配慮して可能な限り企画展を実施したことは高く評価できる。動画配信による取組は、今後の博物館活動のさらなる拡大につながるといえる。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じた安全に配慮した運営が大切だと考える。全国各館でさまざまな新たな取組がなされており、相模原の参考となるものも少なくないと思うので、情報収集に努めていただきたい。
- ・博物館には様々な専門分野の学芸員が配置されているので、単独の分野の企画だけではなく分野を横断した総合的な企画もあった方が良くはないか。分野を超えた、本当の意味での総合展示を企画したらどうか。学校でも教科横断型授業が始まっており、分野を横断した展示があれば学校教育でも活用することができるのでぜひ実現してほしい。
- ・常設展示はそこに展示されていることが地域の人にとって誇りになる。映像は映像であって、実物を見に足を運んでもらうことが大事である。常設展示リニューアルはとても必要なことで、頑張って取り組んでほしい。
- ・博物館に来館するたびにエントランスのミニ展示が目新しく、効果的であると思う。企画展やミニ展示の成果を常設展示に反映されるような取組が必要であろう。
- ・常設展示リニューアルのためにクラウドファンディングも検討したらどうか。2次元コードを読み取ってスマートフォンやタブレットで展示解説を見ることができることも検討してはどうか。

## 1-2 宇宙教育普及事業の展開

### 【自己評価】

- ・緊急事態宣言に伴う臨時休館のため、令和2年度は延期となった JAXA との連携企画展「相模原と月」を令和3年度に実施し、新型コロナウイルス感染症の影響があったにも関わらず、多くの来館者を得た。また、小惑星探査機「はやぶさ2」の地球帰還カプセル世界初公開展示(令和2年度)や、小惑星リュウグウのサンプル公開(令和3年度)を行うなど、JAXA と連携した、全国的なニュースバリューのある展示などを通じて、相模原市のシビックプライドを高めることができた。
- ・小惑星探査機「はやぶさ」の日(6月13日)及び「はやぶさ2」カプセル地球帰還の日(12月6日)に合わせ、JAXA 講師による講演会やパネル展示、関連したプラネタリウム番組を上映するなど、JAXA と連携できる強みを活かした事業を展開した。
- ・JAXA 相模原キャンパス宇宙科学探査交流棟にオープン当初(平成30年2月)から設置させてもらっている博物館の紹介及び資料展示スペースでは、昆虫等の標本や岩石展示など、内容を定期的に更新し、分野を超えた展示連携を続けている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた連携企画展開催時の資料の借用など、相互利用の推進を令和3年度には再開することができた。
- ・緊急事態宣言による休館の中でも、「ネットで楽しむ博物館(公式 YouTube チャンネル)」及び公式 Twitter や地域の情報紙への寄稿などで、博物館の展示紹介や星空情報を継続的に配信し、定常的な学びの機会を提供した。
- ・プラネタリウム事業では、JAXA 協力のもと進めた新番組の制作・投影のほか、団体利用で提供する小学校を対象とした学習投影の番組更新、委託業者からの提案事業として行っている無料のミニ番組「おためしタイム」など、幅広い年代に向けた宇宙教育普及を目指す番組を展開することができた。

### 【市民の意見】

(企画展アンケートより)

- ・スケールの大きい展示で、パンデミック下の鬱屈な気持ちに風が吹きました。
- ・月と相模原との関係について考えたこともありませんでしたが、意外に関係が深く面白かったです。
- ・いつも面白い展示をありがとうございます。子どものことも考えて下さっていて嬉しいです。
- ・これからも見て学んで楽しめる、宇宙に関する様々な企画をお願いしたい。
- ・これからも身近な不思議について展示をお願いしたい。子どもも飽きずに見ることができた。
- ・JAXA との展示は今後もぜひやってほしい。身近な月について深く学ぶことができた。

(プラネタリウムアンケートより)

- ・全天周映画がとてもしリアルで宇宙を旅行しているようで楽しかった。
- ・全天周映画がいつも楽しみです。今回はとても良くて今日で2回も見ました。
- ・プラネタリウムの空や綺麗な星を見ることができて楽しかったです。
- ・プラネタリウムのお試しサイコーです。
- ・プラネタリウムの上映回数を増やして欲しいです。

## 【有識者意見】

- ・宇宙事業は誰もが関われる訳ではないので、プラネタリウムがある博物館は、市民を宇宙へ近づけ、共に歩んでいると感じさせてくる施設である。
- ・プラネタリウムは、天候などのコンディションに左右されずに天体の学習をしたり、天体観測を模擬的に体験したりできるため、宇宙教育において重要な施設である。プラネタリウムの投影技術や機器は日進月歩で進化しており、これらの技術や最新の機器類を導入するよう検討していくべきではないか。
- ・平成 22 年の「はやぶさ」に続き、「はやぶさ2」の帰還カプセルについても世界初公開が実現できたことは、大変喜ばしいことといえる。コロナ禍において、感染症対策を取りつつ、パブリックビューイングや公開展示が実施されたことは、当博物館の社会的認知度の向上にもつながったものと考えられる。
- ・プラネタリウムの新型コロナウイルス感染対策として通常 210 席を 40 席に減らした対応は良かったと思う。
- ・JAXA との連携も重要であるが、JAXA に頼らない博物館独自の企画を展開し、次世代につなげていくことも考えてはどうか。博物館独自の事業のアピールも進めていくべきである。JAXA はサイエンスだけだが、博物館はサイエンスと文化を扱っている。10 年先を見据えて、博物館が取り扱う分野を拡張してテクノロジーやエンジニアリングの部門もカバーしてはどうか。
- ・宇宙教育には気象分野も含まれており、人々の生活と宇宙や気象のかかわりがわかるような事業を、市民活動とうまく結びつけて展開すべきである。
- ・プラネタリウム番組は上映される時間帯が固定されているので、見たい時間帯に博物館に来ることができない場合がある。時間帯を変えて上映すればより多くの方に見ていただけると思うので、ぜひ検討してほしい。

## 2 関連施設・機関との連携

### 2-1 博物館ネットワークの推進

#### 【自己評価】

- ・博物館を中心に市域の関連施設とのネットワークを活用し、幅広く活動を展開した。
- ・博物館所管施設である尾崎罌堂記念館及び吉野宿ふじやで、地域の特色を活かした普及事業の実施を地域の団体へ委託した(尾崎罌堂記念館展示・普及事業、吉野宿ふじや活性化事業)。
- ・史跡勝坂遺跡公園での普及事業や相模川ふれあい科学館の展示に協力した。
- ・市教育委員会文化財保護課、(公財)神奈川県公園協会と共同で津久井城跡の市民協働調査を実施した。
- ・令和3年度には、生涯学習部内連携事業として、文化財保護課、旧石器ハテナ館、図書館と連携し「世界遺産じゃないけど相模原にもある縄文遺跡群」を開催し、「さがみはら縄文遺跡マップ」を作成した。
- ・環境情報センターにおいては環境セミナーへの講師派遣、自然環境観察員制度による全体調査、分科会調査などに協力し、専門の立場からアドバイス等を行った。

#### 学芸員の講師派遣及び関連施設における展示・普及事業等の概要

( )内は、関連事業を含む延べ参加者数

講師派遣等		
R2	36 件(うちオンライン9件)	(1,446 人)
R3	68 件(うちオンライン8件)	(2,040 人)
尾崎罌堂記念館展示・普及事業 ( )内の数字は事業開催中の来場者数		
R2	1事業(0人)	委託事業は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。代替として「尾崎行雄(罌堂)ゆかりの地マップ」を改訂し、刊行。
R3	1事業(16,093 人)	ミニ企画展「尾崎行雄の不戦運動」を博物館エントランスにて実施。
吉野宿ふじや活性化事業 ( )内の数字は事業開催中の来場者数		
R2	2事業(0人)	当初計画していた4つの企画展は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため全て中止。代替として「甲州道中吉野宿マップ」、「吉野宿ふじやリーフレット」を改訂し、刊行。
R3	3事業(1,464 人)	「小淵村の昔むかし」展、「いまきみち・西村繁男・にしむらあつこ 絵本原画」展、「甲州道中—相模湖・藤野・上野原—おひな様」展(関連事業「ひな人形づくり体験」)を開催。

## 【市民の意見】

(来館者アンケートより)

尾崎弴堂記念館

- ・尾崎行雄の思想がここまで戦争反対であったことを初めて知った。
- ・尾崎行雄が戦前・戦中の政治家であることは知っていたが、アメリカへの桜の寄贈など、様々な活動をしていたことがよく分かった。

吉野宿ふじや

- ・昔ながらの大きなお雛様を久々にみて、懐かしい気持ちになった。家族で鑑賞し、いい思い出になった。

## 【有識者意見】

- ・関連施設の「尾崎弴堂記念館」と「吉野宿ふじや」は交通の便などの問題もあり、課題が多いと考えられる。市の交通網整備と結びつく問題であるので、市全体の問題として捉え、大きな展望を持って議論していく必要がある。
- ・尾崎弴堂記念館の資料保存方法について検討されたい。
- ・博物館のミニ展示の巡回は非常に良い取組であったと思う。今後も継続して実施をお願いしたい。尾崎弴堂記念館に足を運んでもらう良いきっかけとなっただけなく、遠方の市民に博物館を周知する機会となったと思う。

## 2-2 学校への学習支援

### 【自己評価】

- ・学校教育支援に対応した学習資料展を毎年開催している。令和2年度は、家庭で使われていた道具や暮らしの移りかわりを市民のみなさんの体験エピソードとともに展示した。令和3年度は、地域に暮らす高齢者が幼年期のころに家庭で使われていた道具を中心として、その道具の変遷や暮らしの移りかわりを紹介した。
- ・小中学校・幼稚園・保育園等へのプラネタリウム番組の学習投影や展示学習に取り組み、令和2年度は24件、令和3年度は91件の利用があった。博物館職員の小中学校・高校・大学への講師派遣も実施しており、令和2年度は14件、令和3年度は24件の依頼に対応した。
- ・博物館資料の貸出しキットを学校へ貸出しを行い、令和2年度は16件、令和3年度は13件の利用があった。今後は周知も含め、積極的に取り組んでいきたい。
- ・平成29年度からは、博物館と学校間で学習活動の調整や支援を担っていた指導主事の配置がなくなり、細やかな連携がとりづらくなった。そのため、博物館と学校との間で円滑な学習支援を行うコーディネーターの役割を担う人材の配置が望まれており、博物館が担うべき学習支援に対し、より力を入れて取り組んでいくことが課題として挙げられる。

### 【市民の意見】

(学習投影・展示見学者アンケートより)

- ・学習内容にあったプログラムで、子どもたちが関心をもって鑑賞できました。
- ・ただプラネタリウム番組を鑑賞するだけではなく、子どもたちのペースに合わせて進行して下さりありがとうございました。
- ・展示見学の時間が少なかったのもう少し時間があるとなお良かった。
- ・社会科の学習で扱った内容を指導員さんから話してもらい、復習になり、より理解が深まったように感じる。

(貸出しキットを利用した教員からの意見)

- ・土器や石器に実際に触れることにより、子どもたちでなく教員も非常に貴重な体験ができたと感じている。
- ・写真だけだと質感が分からないが、実物を見ることにより、質感まで体感できたことは非常によかった。(子ども達は糸車が木でできていることに驚いていた)
- ・日常で昔の道具などをみる機会は少ないため、実物に触れることでイメージを掴めたようだ。

### 【有識者意見】

- ・博物館から遠方にある緑区の学校は、距離的な感覚だけでなく心理的な距離を感じる。公民館などの公共施設と連携して出張展示などができるのと博物館が身近に感じてるのではと思う。
- ・貸出しキットの認知度は教員間でも差があり、一般に認知度は低い。利用すると良い感想を持つ教員が多いので、もっと宣伝できたら良いと思う。教員の研修でも利用しているので、重要な取組である。さらに利用しやすくするために、どの単元で利用できる資料なのかがわ

かるようなリストの整備が必要と考える。遠方の学校は博物館に借りに来ることが難しく、運送費の予算化等の遠方の学校でも借りやすくする工夫の検討をお願いしたい。また、映像等による情報提供を積極的に検討してほしい。

- ・貸出キットも含めた学校への学習支援は、学校のニーズに合わせるため、博物館と学校をつなぐ役割を果たすコーディネーターの配置が必要である。
- ・学校でも ICT の活用を検討しているので、今後、博物館も ICT の活用を検討していきたい。
- ・当校の生徒は、博物館学芸員の指導や協力をいただいている。学校の部活動と学芸員や博物館ボランティア活動の連携の機会がもっとあると良いと思う。
- ・学校にも貴重な資料が保管されていることがあるので、市内の学校に保管されている資料を把握しておく必要がある。また、それらの資料が継続して保管・活用できるように支援していく必要がある。

## 2-3 図書館・公民館等との連携

### 【自己評価】

- ・教育・普及活動の一環として、公民館及び図書館、環境情報センター(エコパークさがみはら)等で実施された講座・観察会などに、依頼に応じて学芸員の講師派遣を行っている。
- ・派遣依頼件数及び聴講者延べ人数は、令和2年度が22件537人、令和3年度が44件838人であり、聴講者に市の自然・歴史や博物館について理解を深めていただいている。
- ・その中でも、社会教育施設等への派遣は多く、公民館のほか、図書館などの公共施設での教育・普及活動に積極的に対応している。
- ・特に、同じ淵野辺駅を最寄りとする市立図書館とは、企画展の出張展示の開催、関連ブックリストの作成・配布、貸出期限票裏面での企画展紹介などを協力して行い、相互連携による来館PRに取り組んでいる。また、SNSでの相互フォローやリツイートなど、広報活動での連携も進めている。

### 【市民の意見】

- ・公民館の講座などでのアンケートでは、どの分野においても、専門家の説明により相模原についてよく理解する機会が得られてよかったなど、好評意見を参加者から多くいただいている。
- ・学芸員の講師派遣や他施設での出張展示をきっかけに博物館に来たという来館者もあり、他機関との連携は博物館のPRにも効果的である。

### 【有識者意見】

- ・公民館等への学芸員の講師派遣は、普段博物館に来ない市民へ博物館の存在を印象づける良い機会である。今後も積極的に講師派遣を推進してほしい。
- ・専門家である学芸員から話を聞くことは、市民が地元のことを学ぼうとする良いきっかけとなる。公民館だけに限らず、他の社会教育施設をはじめ、地域の様々な施設と連携を強化すべきである。

### 3 市民との協働による博物館活動の展開

#### 3-1 市民の会の活動の展開

##### 【自己評価】

- ・現在、各分野における専門領域の活動や一般の普及事業に携わる市民の会は、令和2年度は11団体、令和3年度からは10団体となり、博物館の資料収集や整理、保存などの専門領域をはじめ、展示教育普及事業に至る活動を市民の会との協働で実施し、常設展示を補うミニ展示なども実施している。しかし、令和2・3年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響による臨時休館や、市民の会の活動自粛によって大きな影響を受けた。そんな中でも、市民の会との協働は博物館活動の軸となるものとして、感染対策に工夫しながら、できることから活動を再開していった。
- ・毎年、博物館の開館記念日である11月20日前後に市民による調査研究活動の成果発表の場である「学びの収穫祭」を行い、各団体が口頭発表やポスター展示、ワークショップ等を企画・実施しているが、令和2年度は企画調整の段階で中止とした。3年度については、口頭発表は中止したもののポスター展示を11月2日から28日に実施し、活動成果を来館者に発表するとともに、市民の会相互の理解を深め、情報交換をする場を確保した。

##### 【有識者意見】

- ・若い世代が参加している市民の会がある一方で、高齢化や固定化が否めない団体があることは、博物館の今後の課題である。
- ・市民協働は博物館の主軸である。市民目線による解説のわかりやすさ等、市民が博物館活動に参加することのメリットは博物館にとって非常に多い。多くの市民団体に支えられており、その成果発表の場である学びの収穫祭は重要である。
- ・「市民とつくる博物館」というコンセプトでこの博物館をつくってきた。常設展示の展示替えも市民と一緒に行ってほしい。
- ・収蔵庫等の資料を市民の要望によってどのくらい実際市民に活用してもらっているのかというようなことを評価に入れた方が良いと考える。

### 3-2 市民学芸員の活動の展開

#### 【自己評価】

- ・令和2年度は 43 名の方が前年度から更新継続され、学習資料展では、内容の検討、展示資料選定、展示の設営・撤収等、展示や事業の全般にわたり主体的に活動した。その他、星空観望会、ふるさといろはかるた、情報発信などのチームに分かれて自主的に活動し、総活動回数は延べ 44 回、活動参加者数は延べ 304 人に及んだ。
- ・令和3年度は、追加募集を行い、全体で 53 名の登録となった。活動については、前年度に引き続き学習資料展の企画・準備と関連事業運営、クイズラリーの企画・運営、星空観望会補助等を実施した。また、ふるさといろはかるたを新たに 20 セット追加制作し、学校教育等での利用に対応できるようにした。活動回数は延べ 75 回、参加人数は延べ 485 人に及んだ。

#### 【有識者意見】

- ・市民学芸員制度はとても良い制度である。多くの市民学芸員が登録されているので、さらに活躍できる場を提供できればと思う。また、博物館の活動を支援してもらっているのだから、もっと積極的に参加をお願いしても良いのではないかと。ただし、市民学芸員が学芸員の人員補充の策になってはいけない。
- ・市民学芸員は2、3年ごとに新規加入があり、10 年以上在籍しているベテランとのバランスが良いことが、継続して活動して来ることができた理由であると考えられる。今後も、様々な場面での活躍を期待したい。

## 4 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

### 4-1 資料整理及び展示、調査成果の公表

#### 【自己評価】

- ・博物館収蔵資料点数は、令和2年度で 260,119 点(前年度比 0.8%増)、令和3年度で 260,528 点(前年度比 0.2%増)となっている。両年度とも、コロナ禍の影響もあり、資料の新規登録件数は少なかった。
- ・資料整理については、これまで市民協働等により実施され、例えば歴史分野においては、津久井郷土資料室に収蔵されていた文書等の膨大で多種にわたる紙資料の整理を市民協働で実施し、その成果の一部を学習資料展やミニ展示などで展示してきた。両年度ともコロナ禍で休止状態になり、それが資料の新規登録件数の減少の一因となっている。令和3年度後半から徐々に活動を再開したが、活動頻度や人数はコロナ禍以前よりも減少している。
- ・調査研究活動については、市民の会やその他、外部の研究者とともに市内外をフィールドとする調査を実施してその成果を『相模原市立博物館研究報告』に掲載しており、令和2年度に 11 件、令和3年度に5件の調査研究成果を報告した。
- ・その他、新規の収集資料や調査研究成果については、エントランスや常設展示室内等で「ミニ展示」を実施し随時公開に取り組んでいる。
- ・令和2年度に津久井城跡の市民協働調査の成果、令和3年度に川坂遺跡の発掘調査の成果について、文化財保護課と共同で報告書を発行した。

#### 【有識者意見】

- ・昔の資料だけでなく、平成・令和期の資料収集も必要なので、計画的な収集をお願いしたい。積極的に資料の提供を市民に呼びかけるなどして、なくなってしまう前の収集を検討していただきたい。
- ・市民の中には博物館に関わらず活動をしている方もいる。そのような方は発表する場がないので、博物館の研究報告での発表も検討したらどうか。
- ・調査研究は学芸活動の基本を支えるものであり、博物館の重要な機能の一つである。博物館は多くの教育普及事業や展示を行っているので、学芸員がオーバーワークとならないよう、行政や管理者には是非理解を願いたい。

## 4-2 様々なメディアを用いた情報発信の取組

### 【自己評価】

- ・博物館の広報活動では、広報さがみはらへの掲載を基本としつつ、博物館のホームページや公式 SNS (Twitter)、「相模原市立博物館の職員ブログ」、「ネットで楽しむ博物館(公式 YouTube チャンネル)」を利用し、プラネタリウムの番組情報や混雑状況、イベント情報の発信や、天体・天文現象の写真や動画、博物館の日常の風景や展示などの紹介を行った。
- ・博物館の事業を一覧できる資料として、「博物館イベントニュース」を発行して周知を図った。(令和2年度:8回、令和3年度:8回)。
- ・メディアを多角的に広げた情報発信を行うことで、情報の迅速な拡散や、それぞれのメディアの特性に応じたきめ細かい情報の発信及び周知を図ることができた。

### 【有識者意見】

- ・ホームページは利用者にわかりやすいように改善すべきである。スマートフォンでホームページを閲覧する方も多いため、フォントや色使いなどスマートフォンでも見やすくなるような工夫をするべきである。また、若い世代には SNS を活用した情報発信が効果的なので、さらなる活用を検討してほしい。
- ・職員ブログは博物館のイベントだけでなく、様々なジャンルの情報が得られるため、非常に良い取組である。もっと広くアピールすべきと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症をきっかけに動画配信が盛んになっている。動画の編集・公開方法を工夫し、動画等の配信を通じて、より多くの市民が博物館をさらに身近に感じやすくなることを期待する。
- ・ホームページや動画は、若い世代に向けて情報発信をするためには有効な手段である。今の若い世代の意見を取り入れて改善すべきである。
- ・小中学校でもタブレットやパソコンが授業で取り入れられているため、日常的な学習の一環として、博物館の動画を教材として使うことができると良いと思う。
- ・SNS を活用した情報発信は、イベントだけではなく研究成果なども含めた博物館の価値を提供すべきである。
- ・イベントニュースなどを市内の全小中学校に配布することも検討すべきである。
- ・高齢者への広報は、アナログの方が効果的と思う。自治会等への周知を検討していただきたい。